

DESIGNPHIL NEWS LETTER

2025 VOL.43

TOUCH & FLOW
-10th Anniversary-



NEWS LETTER

2025 VOL.43

TOUCH & FLOW -10th Anniversary-

DESIGNPHIL NEWS LETTER

デザインフィル ニュースレター 第43号

発行日 | 2025年1月31日

企画・編集 | マーケティング部 広報グループ

TEL 03-5789-8058

株式会社デザインフィル

〒150-0013 東京都渋谷区恵比寿 1-19-19 恵比寿ビジネスタワー 9F

www.designphil.co.jp

この冊子は、使用した用紙（ヴァークレイ CoC）と同じ重量の CO₂ を国内のオフセット・クレジット（J-VET）によってオフセットしています。1冊あたり約 26g、4,040 部作成いたしましたので、26 × 4,040 = 約 105.04kg の CO₂ をオフセットしています。



10th Anniversary



受け継がれてきたもの



代表取締役社長
会田 一郎

新しい社員教育研修制度「デザインフィルスクール」を開講しました。その一環として私が「ミドリ(現在のデザインフィル)の歴史」に関する講義を担当しました。これは、私たちの会社が長い年月の中で築き上げてきた知識や価値観を次世代へつなぐ「知の伝承」の場でもあります。

弊社は1950年、第二次世界大戦の終戦5年後、戦後東京の焼け野原から芽吹く雑草の生きる力にちなんで「みどり商會」と命名し創業しました。当時製造していたものは主にトレードマーク飛脚印の「便箋」と「封筒」。ほかに「帳簿」「塗り絵」「ノート」「スケッチブック」「メモ帳」「日記」などの紙製品です。創業当時の会社は二長町(現在の東京都台東区台東2丁目辺り)にあった祖父の家で、印刷機一台の工場、事務所と2階の住居を兼ねたものでした。1960年代は「ダイヤモンド」などロングセラーの核となる紙製品が誕生。この頃から伝票などの事務用品よりも意匠を施したものが売れるようになりました。1963年に社名「みどり商會」はカタカナの「株式会社ミドリ」に変更。その翌年1964年に流山工場を竣工、本格的な印刷と製本設備を装備し、量産時代へと入っていったのです。

私が幼い頃によく父が言っていました。「紙一枚で売れば1円、絵を付ければ10円」。言ってみればデザインの会社としての弊社の原点はこの言葉にあります。その後「絵」とは、単なる装飾に留まらず、製品に付加される機能やユニークな特徴も含むものになっていったのです。今日デザインフィルが呼んでいる「デザイン」という概念そのものと重なります。製品に付加価値を与える「デザイン」の本質が、この言葉に凝縮されているのです。

創業時から続くこの精神は脈々と受け継がれ、これまで、さまざまなブランドや製品が誕生し、長きに渡りファンの皆さまに愛される原動力になってきました。2024年には、「タッチアンドフロー」が10周年、「オジサン」は30周年を迎えました。前者は「手書きを楽しむ大人のステーションナリー」という設立当初のコンセプトから発展し、10周年を機にステーションナリーからアートまでを包括し「創作の楽しみを思い出す場」という新たなビジョンへと挑戦してまいります。一方「オジサン」は30年間不変です。期待を裏切らずにいつも同じパーソナリティーで皆さまに和んでいただいているのではないかと思います。

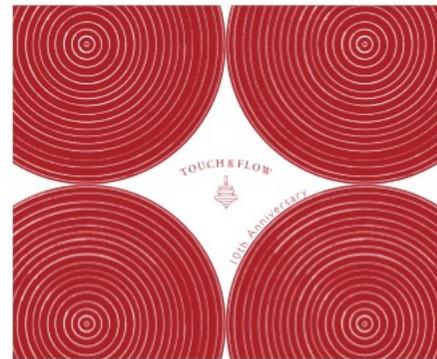
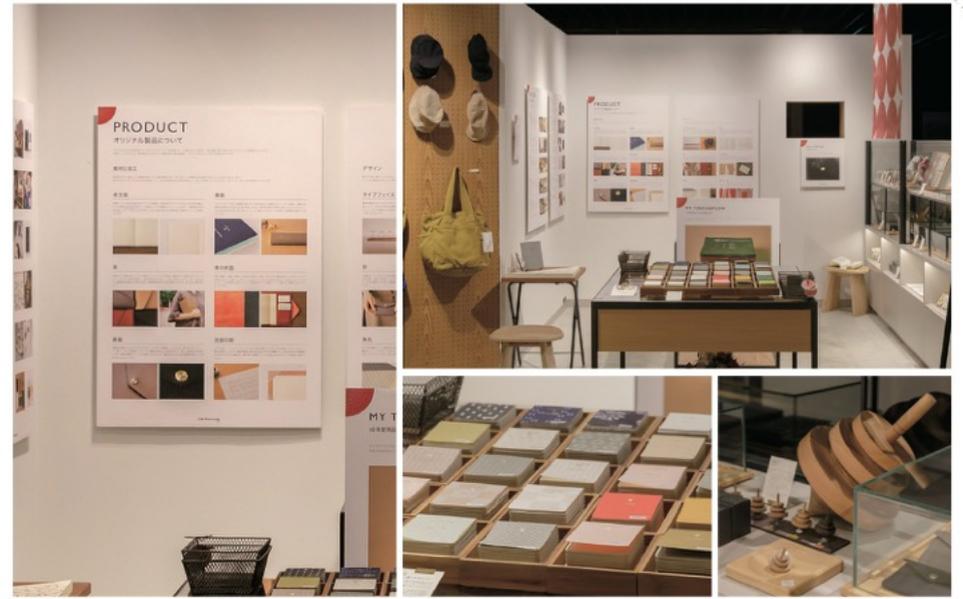
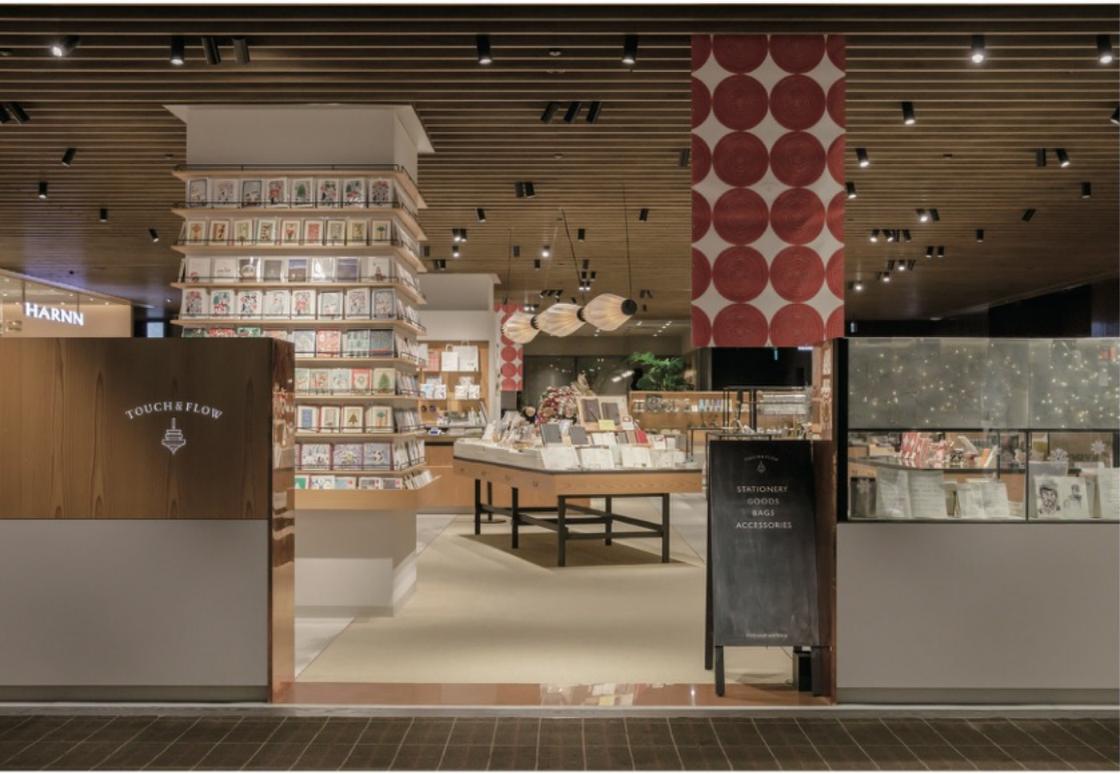
さらに、「ミドリ」、「トラベラーズカンパニー」、「MD PAPER PRODUCTS」、「KNOX」、「PLOTTER」などさまざまなブランド事業を通じて、私たちは創業当時の精神を守り続けています。それは、「デザイン」や「機能」を付加し、時代に求められるモノを追求する姿勢です。この探求心こそが、私たちの原点であり、未来を切り開く力でもあります。

これからも、受け継がれてきた精神を胸に、皆さまに愛されるデザインと価値をお届けできるよう精進してまいります。

SPECIAL ISSUE

TOUCH & FLOW

10th Anniversary



10周年のキーグラフィック

「タッチアンドフロー」のロゴマークであるコマが回転しているイメージから生まれた「スピンドット」。歴史の中に常に存在してきたコマは、過去と未来をつなぐ象徴です。「タッチアンドフロー」のステーションナリーは、どんなときも人々の暮らしを楽しくするものでありたい。そんな気持ちを託し、おめでたい印象がある「真っ赤」なデザインにしました。

TOUCH & FLOW 10th Anniversary

「TOUCH & FLOW (タッチアンドフロー)」が2024年12月に10周年を迎えました。これを記念して開催した「10th Anniversary Fair」や、直営店・日本橋高島屋S.C.店の魅力などをご紹介します。

ご挨拶

message

タッチアンドフロー事業部 事業部長 豊田栄一

デジタル技術の進展により「紙離れ」が進む中、それに抗うように「手書き」を楽しむための店づくりやものづくりに取り組んでまいりました。これからの10年間においては、「創作の楽しみを思い出す場」として、手を動かす喜びや、そこから生まれる創作物、そしてその先にある幸せを提供し続ける店・ブランドでありたいと願っております。今後とも「タッチアンドフロー」をよろしくお願いたします。

HISTORY / 10年の歩み

「手書きを楽しむ大人のステーションナリーショップ」として
2014年12月にオープン。これまでの10年の歩みを振り返ります。

<p>2014.12</p> <p>湘南T-SITEに1号店をオープン。同時にオリジナル製品の販売を開始</p> 	<p>2015.9</p> <p>月間ダイアリー（トウデイ）の販売開始。発売以来、素材・仕様・デザインを何も変えずに定番製品に</p> 	<p>2016.3</p> <p>東急プラザ銀座に2号店をオープン。「発見」がテーマの引き出し什器を象徴的に配置した店舗デザイン</p> 	<p>2018.9</p> <p>日本橋高島屋S.C.新館に3号店をオープン。ゆったりとした空間に、試し書きテーブルやカードタワー、ギャラリースペースなどを配置</p> 	<p>2020</p> <p>「ArtTouch」シリーズ誕生。作家コラボ「ポストカード」発売</p> <p>● 2022.2 湘南T-SITE店を閉店</p> <p>● 2022.3 東急プラザ銀座店を閉店</p>	<p>2022.3</p> <p>「紙博」初出店</p>  <p>● 2023 「アーティストスタンプ」発売</p> <p>● 2024.12 「10th Anniversary Fair」を開催</p>
---	---	---	--	--	---

PRODUCTS / ものづくりのこだわり

さらに詳しいこだわりは、特集ページからご覧いただけます。



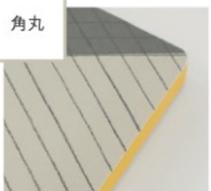
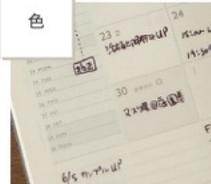
「Write the world! (世界を書こう)」が「タッチアンドフロー」の合言葉。手で書く楽しさを追求し、紙の品質や触り心地にこだわったオリジナル製品を作っています。手帳やノートのカバーも、毎日触れるものだからこそ愛着が湧く素材を厳選し、デザインや加工にもこだわりを詰め込んでいます。

飽きずに長く愛用しているものは、一見するとなんでことのない姿形であることが多いもの。控えめで主張はし過ぎず、それでいて頼りになる、まるで「毎日会いたくなる友のような」存在であることを目指しています。

使い込むことで愛着が深まる素材・加工

控えめだけど頼りになる。「毎日会いたくなる友のような」存在のデザイン

<p>紙</p> 	<p>本文には、万年筆でもにじみや裏抜けがしにくく、書き味の良さを追求し続けている当社オリジナルの「MD用紙」を使用しています。</p>	<p>一枚仕立て</p> 	<p>革製品は、開きの良ささと軽さと薄さ、そして革の質感を生かすため、芯材を入れず内生地も貼らずに革一枚で仕立てています。</p>
<p>革</p> 	<p>手帳カバーや財布には、イタリア製のシュリンクレザーを使用。適度なコシを残しながらもソフトでしっとりとした質感が特徴です。</p>	<p>活版印刷</p> 	<p>凹凸のある文字や図案が手に伝わる、独特の質感と温かみが活版印刷の魅力。カードは自社工場で作っています。</p>

<p>タイプフェイス</p> 	<p>イギリスの彫刻家エリック・ギルが1920年代後半に制作したGill Sansを使用。古代ローマ碑文などの古典を基にしつつ、モダンで整然とした印象に。</p>	<p>角丸</p> 	<p>全ての手帳とノートは角丸仕上げ。角が傷みにくく、ページがくっつきにくいなどのメリットがあり、デザインにもやさしい温かみを加えます。</p>
<p>色</p> 	<p>本文の罫線や数字は控えめなチャコールグレイ。書くことを邪魔せず、書いた文字を引き立てる。それが「タッチアンドフロー」の目指すデザインです。</p>	<p>ネーミング</p> 	<p>仕様ではなく「どのような存在であってほしいか」で製品名を決めています。例えば、日常を描く日記のようなノートは「デイリースケッチ」という名前。</p>

ユーザー6名にインタビューをしました。
ご愛用いただいている主なアイテムをご紹介します。

Q1. 「タッチアンドフロー」製品では何をお使いですか?
Q2. それを使う理由や、好きなどを教えてください。

インタビュー全編は
こちらからご覧いただけます。



大熊 健郎

CLASKA Gallery & Shop DO ディレクター

- A1. [ミニスケッチ] B7 ノート&手帳革カバー
A2. 革カバーはシュリンクレザーと真鍮スナップボタンという素材の組み合わせが好みで、上質感がありながらもどこことなくかわいらしさのあるデザインが気に入っています。



安田 寿之

音楽家。音楽環境研究所合同会社代表。
武蔵野音楽大学講師

- A1. [デイリースケッチ] B6 ノート 無罫
A2. 箔押しされたきれいな色の表紙に愛着が湧きます。毎日、仕事前に前日の日記を書いています。

長友 薫

百貨店広報を経て、出版社勤務。
現在は関連会社に向向し、複数の出版社の書籍のPRを担当

- A1. [ポケット] カードポーチ
A2. 名刺入れとして。とにかく手触り! シュリンクレザーが柔らかくて手になじみますし、ひんやりした革の質感を感じるのが好きです。



福元 眞由

北海道北広島市「かくれ家」スタッフ

- A1. [バンク] ロングウォレット
A2. 一目ぼれです。長く愛用している[バンク]は、洗練された雰囲気がまさに理想とぴったり。レザーの艶が増して愛おしい財布です。



廣石 幾

民営国民宿舎 丹沢ホーム 若女将

- A1. [トゥデイ] B6スリム マンスリーブロック 手帳
A2. 日頃は見開きで、壁掛けカレンダーとして。持ち歩くときにもかさばらない、必要最小限なサイズ感が気に入ります。



廣島 直樹

廣栄紙工株式会社 代表取締役社長

- A1. [デイリースケッチ] B6 ノート 無罫
[フレーズ] B6 ノート 横罫
A2. デザインのシンプルさ。表紙の適度な厚み。表紙の色。どの色も好きですが、一番好きな色は赤!

SHOP

日本橋高島屋S.C.店のここがすごい！

大人感性のステーションナリーショップとして、一般的な文具店とは異なる取り組みを行ってきました。手書きの楽しさ、文具のある豊かな暮らしを感じていただけるような店づくりを目指しています。そんな「タッチアンドフロー」の魅力をご紹介します。



1 江戸文化の発信の場であった、かつての日本橋をイメージし、日本を象徴する素材の杉と銅を用いた内装 2 店内中央にある試し書きテーブルを明るく照らす巨大なシーリングランプは、福井県の越前和紙を折って作られたもの 3 ギャラリースペースではさまざまなアーティストの個展を行っている 4 店内でも目を引くカードタワーには、世界中のカードを500種類以上展示 5 書き見本やPOPも充実。全て文具好きなスタッフが手書きで作成

MY FAVORITE

スタッフのおすすめをご紹介します。



山田

店内併設のギャラリー

「新しい発見の場」をコンセプトに、絵画や工芸品など、さまざまな作家の作品を3~4週間ごとに入れ替えて展示販売をしています。気軽に入れるところもポイントです！



柿本

大きな試し書きコーナー

手軽に手に取れるものから高級品まで、さまざまな筆記具をお試しいただけます。お店に来るときっと何か書きたくなるはず。



蓮見

バリエーション豊かなカード

500種類以上ある海外の直輸入カードや「タッチアンドフロー」オリジナルのポストカードは見応え抜群です。



店長・西尾

Craft雑貨

作家さんこだわりのCraft雑貨は、1点モノの出会いをお楽しみいただけます。



代官山 蔦屋書店

a,b,d.東京会場「代官山 蔦屋書店」。ゆったりとした心地の良い空間にディスプレイ
「オジサンって誰?」「オジサンなのに30周年?」初めてのファン多数が興味を持って来場
c.「オジサン」のサイン会ではファンの方のお好きなイラストをサイン。日本全国からたくさんの方に来ていただきました
e.大人気のスタンプコーナー。オジサン誕生日にはスペシャル版も登場

OJISAN 30th Anniversary
— since 1994 —

「ミドリ」の人気シリーズ「オジサン」の誕生30周年を記念して、オフィシャルイベントを東京と台北で開催。『ポストカードブック』や原画の販売など、文具の領域以外も意識し、アートやカルチャーに興味のある方が多く来店する書店をイベント会場に選びました。「オジサン」ファンだけでなく、まだ知らない方にも「オジサン」の世界をたっぷりとお楽しみいただく機会となりました。



台北 誠品生活 南西店

a.作者に会うためにたくさんの熱いファンが来場!
b,c.現地のスタッフさんが楽しいディスプレイを用意
d.台湾デザインのスタンプ



TRAVELER'S COMPANY CARAVAN
USA Road Trip



TRAVELER'S COMPANY CARAVAN

「トラベラーズカンパニー」がキャラバン隊となって旅するイベント、トラベラーズカンパニーキャラバン。2024年11月、「Road Trip」をテーマに、ロサンゼルス、サンフランシスコ、ポートタウンゼントの西海岸3都市で開催しました。待ち望んだファンの皆さんのにぎわいと熱気に包まれ、至る所でユーザー同士が久々の再会を喜び抱き合うシーンを多く見かけ、自然とその場にいる全員が笑顔になる、そんなイベントとなりました。



「USA Road Trip」の詳しい様子はこちらからご覧いただけます。



1.初日開催1時間前から100名以上のファンが集結! 2.ファンとの会話が弾む 3.途中でリング職人の手がけられんしてしまうほどの盛況ぶり 4.スケッチイベントのレクチャーをするオーナーのマリアさん 5.『トラベラーズノート』が起点となり、愛がふれるイベントに 6.USユーザーの『トラベラーズノート』 7.スタッフもみんな笑顔!

あるファンからいただいた言葉を紹介します。
『トラベラーズノート』の一番の魅力は、人と人をつなげてくれることなの。自然と誰かと出会い、コミュニティが生まれて、生活が楽しくなるの。こんな商品、他にはないわ。サンフランシスコに来てくれて、本当にありがとう

花色に想いをのせるペーパーアイテム「花色和紙」シリーズ



開発期間10年を経て「ミドリ」のオリジナル色和紙誕生!

2023年の限定発売を経て、2024年の夏に定番アイテムとなった「ミドリ」オリジナルの色和紙(越前和紙)を使ったペーパーアイテム「花色和紙」。簡単に思われるかもしれませんが、筆記適性のあるオリジナルカラーの越前和紙を作ることはとても難しく、「花色和紙」の誕生以前から何度もチャレンジを繰り返すようやく完成しました。そんな作り手の思いが詰まった「花色和紙」シリーズの魅力をご紹介します。

✓ オリジナルカラー和紙抄造のきっかけ

海外のウェディングのシーンなどで招待状に使われるような、風合い、質感を感じられる和紙を開発できたらという思いからスタートしました。

✓ 抄造の難しさ

開発当初は、白い和紙を染める方法にもチャレンジしましたが、紙のしわやよれが発生し、仕上がりの美しさの点でうまくいかず断念。試行錯誤の末、原料の段階より色を付ける「先染め」



の手法で色和紙を形にすることができました。

✓ 最も苦労したのは色合わせ

通常は染料が使われることが多い中、耐光性の維持は譲れないポイントとして顔料での色出しに挑戦しました。淡い色味を出すさじ加減が難しく、何度も検討を重ね、やっと理想の色にたどり着くことができました。和紙でありながらも筆記性の担保にもこだわっています。

✓ 和紙の色

花びらの透明感のようなものが和紙で表現できたらすてきな、というところから発想が膨らみました。花の種類を選び、その花の色に合うよう色を調整していきました。



✓ 手仕事の温かみを感じる仕上がりに

紙の色をそのまま生かし、柔らかな線画の花のイラストを控えめにあしらっています。和紙のふんわりとした質感を生かせる活版印刷を採用し、手仕事の温かみを感じるような仕上がりを目指しました。



✓ 和紙の断面に注目

原料の段階から染めているので、断面を見ると中まできちんと色が付いているのが分かります。紙を透かすと質感を感じていただけます。



作り手からのメッセージ

書き手の温かい思いを受け止めるのにぴったりなアイテムです。色和紙の醸し出す柔らかさや活版印刷の優しい凹凸感など、素材感をお楽しみください。

❖❖❖❖ 2024年のクリスマスカード ❖❖❖❖

昨年皆さまにお送りした、デザインフィルのクリスマスカードは、伝統的な装飾として欧米で広く親しまれている「ヤドリギ」をモチーフにした「花色和紙」のレターセットをリデザインしたものです。柔らかな色和紙に感謝の気持ちを乗せてお届けしました。



デザインコンセプト

雪が降り積もる日、トナカイがプレゼントを持って森の中へ。オーナメントが吊るされ、動物たちはプレゼントに大はしゃぎ。そんなクリスマスの楽しいひとときをイメージしたカードです。厚紙カードは雪を感じるような風合いのある紙に活版印刷で立体感を表現。本文は銀と蛍光のシルク印刷で華やかに表現しました。

編集後記

2025年が始まりました。年を重ねるごとに1年が経つのが本当に早く感じます。忙しさに追われ、気が付いたら1年が終わっていたという方も多いのではないのでしょうか。

「ミーニング・ノート」をご存知ですか。良かったことや心が動いたことなどを毎日3つだけ書き出して、1週間後、1ヵ月後に振り返りをしながら自分の行動に意味づけをしていくノート術です。ほんのささいなことでも毎日書き留め、意味を見出すことで人生が豊かになるそうです。皆さまもぜひチャレンジしてみてください。本年もよろしくお願いたします。(編集長M.N)